

ぶんしん

BUNSHIN

人生100年 シニア編

特集 再挑戦 目覚め

年を重ねて開けた人生の新しい扉



ここまで重ねた年月。
本当はまだ、あきらめたくないことがある。
新しい一歩、踏み出すのは不安。
でも。たまには少し違う世界を、のぞいてみようか。

2、3面 十(プラス)5万円への道

4、5面 再挑戦～目覚め

6、7面 シニアの恋愛事情

8面 人生とともに神戸新聞

プラス



(聞き手・本田純一)

特別分冊「ぶんしん」を読んだ感想を
お寄せください。
〒650-8571
神戸市中央区東川崎町1の5の7
神戸新聞編集局 ぶんしん係

—神戸市西区、西谷保さん(67)

(溝田幸弘)

合計 約8万9千円分



愛用のノートパソコンで、アンケートへの投稿などを楽しむ西谷保さん



券やクオカード

プラス

めざせ 5万円の道

—神戸市須磨区、細田香代子さん(61)

「購入書のエントリがうれしい」
心が伝わり、大切にしてきた本や
雑誌が、新しい「人生」を歩み出
したと感じる」と細田さん。これ
からも楽しみながら在庫を減らし
ていく。
(本田純二)



化粧品	3万円
本	2万円
韓流グッズ	2万円
靴・洋服	3万5千円
キッチングッズ	5千円

合計 11万円

商品に一言添えて

発送する商品には、一言メッセージを添え、神戸らしいテープで留める



本は新しいうちに売るべし
メルカリで文庫本を売る作業



限定グッズは大人気
細田香代子さんが
出品予定の韓流グ
ッズや文庫本

愛用のノートパソコンで、アンケートへの投稿などを楽しむ西谷保さん

通勤ラッシュの人波に交じり、白髪でベリーショートがよく似合う小柄な女性が現れた。米アップルの世界開発者会議に特別招待され、「世界最高齢のプログラマー」と称される若宮正子さん(84)だ。

取材場所に指定されたのは東京・六本木ヒルズ。「ここにあるグーグル本社で、（話し掛けて）さまざまな指示を出せる」AIスピーカーのユーザーとして意見を聞かれるのよ。」さっさと口にする若宮さん。

「世界最高齢のプログラマー」
若宮正子さん(84)



■ わかみや・まさこ

「nadado」は「三人官能なびな形」を正し「四人官能」に飾った。高田君のアリがなかったか自分で作ったもの。アがアに出た。〇〇年、米ニ選たレの取付を授け、メレルに取付米をニ選たされたが、英語ができなため、グーデル卿とベーストとして謝。日本語打つ回答をまたしへして謝する様で送した。たとと振返。

二、ユスに流れを、瞬く間に若宮さんの名が歴史に広まった。米ニ選たのテム・ウックが最終賞貰った。米に留まり、世界の業間係者が目する。世界開発者会議

に招待された。若宮さんは「丁丁の世界は若い世代への注目はあつたけど、高齢者は見落とされてきたのかも」と冷静に分析する。

60歳で初めて
パソコンを手にした

若宮さんが初めてパソコンを手にしたのは60歳の時。定年を機に「外の世界とつながりたい」と購入した。シア向けオンライン掲示板に入会するなどネットとの親和性を強めていった。アフリカ開発後は、政府や国連の会議で活躍しながら、全国各地で講演を重ね、メディアにも出演する。シアに1丁々の関

プログラミング、沖縄移住、アイドルの追っ掛け。
年を重ねて新しい扉を開いた彼女らには、今、この瞬間のやりたいことにこだわって生きるという共通点がある。人生の挑戦に、早いも遅いも、老いも若いもない。私たち、これからが、いいところ。

思い描いていた夢と
ぴったりの場所

正月の神様は、セツナにやがて来た。
うすそと化した緑く、一面に広がる青い湖。
山深く言ひ覆われる所とは全く異なる風景。
に、目黒美さん57は「思ひ描いていた夢」と
ひとりの場所と感じた。
今年1月1日、神栖本島最盛望の国産材。
マンコが特産の蘭の役徳、目黒さきは
経済課係の樋口淳、さん43に移住の相談
をしていた。
生まれ育った兵庫県佐用町を中心に、障害
者のグループホームなど事業を運営。その
実績をセツナに後援者、託し、夫の有る
博さん59ととも新たな福祉事業を立ち上
げる。

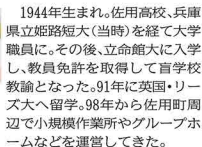
1944年、現佐用町の中安村で生まれた目黒さん。短大を卒業して就職したが、教員の夢を実現するため、大学に入り直して免許を取った。

「当たって砕けろ」に
老いも若いもない

これまでに、子宮内腫瘍に乳がん、肺がん、そして一度の背骨の圧迫骨折を経験。「ヨボヨボのおばあちゃんになるかと思つたけど、意外にしゃんとしてるよね。『当たつて砕ける』に書いても若いもないと思つて」。漠然と夢見ていた、マンゴーを育てながらの南国暮らしを考え始めた。

佐用から沖繩へ移住
目黒輝美さん

■ めぐろ・てるみ



の経歴が、同じ課題を抱える村の活性化につながるれば――樋口さんが、目黒さんの印象を振り返る。「会う前は70代という年齢が気になったんです。でも話してみると、若者にはない経験があつて、自分の考えをしっかり遂行できる人だなと」

「願者が暮らさずには、支える人が必要になつてくる。健康者のみの移住を前提とした一般的な町おこしよりも、実は効果が大いなんですよ」

来春の本格移住に向けてあいさつ回りが続く9月、目黒区は、初めてかりゆを賣つた。落ち着いた朱唇に、淡い花柄が映える沖縄人の「正義」だ。

油を通してみる。心地よさが、全身に伝がった。

（小川 晶）

インターネットで補地を探し、国庫にたどり着く。多分自暴自棄のために片休みを割いてたのこさん地元の人のために好意的な対応に必要とする舞を感じ。描くのは「黒川渾身の町おし」。マンガの1冊のキャラクターの裁縫、加工を手掛けた。地元の職作の事業所を開設する。多し利用を集める。はな、全国が移住してきて、障害者を雇用するのはが、の特色といふ。

**人生を変えてくれた
どきどきする気持ち**

「二人は完璧じゃないからこそ、互いに補い合っているのがいいの」
「この子とは形骸に歌が宿って、その子には耳が通じない歌唱力が授け、音声が二重化しては曲が得意」
「みんな努力家で、地足が着いていて、すごい仲間が良くて」……星路。
大・大・好きなのはアイドルグループのことで、話したらまた知らない。神戸市の藝文なさん58歳假名は、20代前半男性性13組ユニットセブンテンに夢中だ。
若草野は悠閑の通りで、歌謡伎もタラズカもジャズ大の一通り見ている、ハマラがかった。冬ノナから始まった韓国ドラマもスル。で何となく見ているテレビの中、KPOPに心を奪われた。2015年、セブンテンのデビュー。生れて初めて、完全に没頭する深みにはまった。



韓流アイドルオタク
慈憂ななさん(58)

した。

毎月のように韓国を訪れ、コンサートやイベントに参加。手作りの応援うちわやペンライトを片手に、日本での公演はほぼ欠かさず

阪神・淡路平震災で自宅が全壊し、母親を亡くした。「その時から、今しか得られない体験と思い出を大切にしながら生きて思うようにする」。気が付けば、庭の物置の半分はグッズでいっぱい。夫は快く送り出してくれるけれど、出費を思い出すと胸が痛くなるから、行った公演やグッズの数を数えるのは嫌いだ。

とても58歳には見えない。「オタク化してから、友達に若返つたねってよく言われるんです」。他のファンは娘世代の10代、20代がほとんど。その中でも負けないよう、ライブへはできるだけおしやれて行く。若い子にはできない大人ファッションで。

「何れも大好きな存在ができて、どときわくどときわくする気持ちで自分の人生を奏えてくれた」

日韓關係が戦後隆盛といわれる今だけど、カルチャを通じて交流の大切さを広めた。セフンティーンのおかげで知らなかった世界に出会えたからこそ、そう思う。



庭の物置の半分が埋まるほど持っているグループのグッズ。早く送り出してくれる夫には「感謝」

心を持つてもう一つを願つたのである。

「エム・エフ・カ」もしくは、災害時の緊急通報メールもしたり、超高齢社会を迎える日本では、高齢者や認知症の十人を使いこなして、生活や命を守っていく必要があるとして、老いの闘いに感ずるところはあのであるが、思い切つて尋ねてみる。

「闘なうとも勝なせん。沈んでゆへ々々と取捨つても勝なせんものと同じ、今できることを作る。誰のおおはあんだっかおもひしくなにならうと生きていくげきです。」

最後に二二年度の「三、自分の愛は後世に」から二二年度の「三、自分の愛は後世に」を考へるのではなく、次世代が経験していく新しい時代を正しく理解してほしい。それは自分たちのように生きていくが、楽めにもながらあります。」

(五) 愛

共に、歩む

おめでた

新しい命の誕生を紙面に刻みます。
新聞に名前が載る最初のお祝いです。
一部地域では、結婚したカップルの紹介も。

わが家のアイドル

にっこり、おねむ、おすまし…。愛らしい表情が
日々の地域版に並びます。受け付けは3歳児まで。

新1年生のつどい

ピカピカのランドセル姿がまぶしい春。新たな
門出を迎えた親子を地区ごとにお祝いします。

あかふじ米軟式野球

兵庫県内少年野球の頂点を目指す大会。
地区ごとの予選から紙面でもたっぶり
取り上げます。

ひょうごスポーツ広場

少年野球から陸上、バレー、ボウリング、グラウンドゴルフまで。
さまざまな競技の大会結果を原則毎週火曜日に掲載しています。

イイミミ

日々の喜怒哀楽を、電話とファクスで受け付けます。
神戸新聞を代表する人気コーナーです。

金婚夫婦祝福式典

寄り添い、歩んだ50年。大きな節目を
迎えたご夫婦を地区ごとにお祝いします。

117KOBEB ぼうさいマスター

阪神・淡路大震災の教訓を
忘れないために。市民救命
士の有資格者を対象に認定
試験を実施しています。

本支社総局		面	おめでた	アイドル	問い合わせ
神戸本社報道部		神戸		○	078-362-7040
姫路本社		姫路		○	079-281-1125
		西播		○	
東播支社		東播		○	079-422-2073
北播総局		北播	○	○	0795-42-5656
		三木	○	○	
阪神総局		阪神		○	0798-33-5541
北摂総局		三田	○	○	079-563-2256
明石総局		明石	○	○	078-912-4343
淡路総局		淡路	○	○	0799-22-1277
丹波総局		丹波篠山	○	○	0795-72-0540
但馬総局		但馬	○	○	0796-22-3121
神戸本社	運動部	全域		スポーツ広場	078-362-7095
	文化部			イイミミ	078-360-5533
	事業局			あかふじ、金婚式	078-362-7086
	メディア ビジネス局			ぼうさいマスター	078-362-7077

神戸新聞と いつまでも

スポーツ広場



イイミミ

正午から午後3時まで(土・日曜・祝日を除く)
ファクスも併用、いつでもどうぞ FAX 0783-360-5500

外へつながる線
1人ひとりの生活
に役立つ情報が
たくさんあります。
ぜひ、お読みください。
神戸新聞のイイミミは、
読者のみなさんからの
投稿を元に、毎週火曜日に
掲載しています。
あなたの生活、あなたの
悩み、あなたの喜びを
紙面にのせてください。
神戸新聞のイイミミは、
読者のみなさんからの
投稿を元に、毎週火曜日に
掲載しています。

神戸新聞文芸

